

「支援」と「絆」のスタートライン ー日韓アジア基金ー

北村 宏大（会社員）

私と日韓アジア基金の出会いは今から遡ること 2 年前……。年末の年賀状宛名書きボランティアがきっかけでした。当時、駒込駅に降り立った私は基金のホームページからプリントアウトした地図を頼りに会場を目指しましたが、曲がる場所に戸惑うなど、少しばかり道に迷ったのが今となっては懐かしい思い出です。

そもそも当時の私は暇つぶしの感覚で漠然と参加していたのが実情で、参加動機までが迷走気味でした（笑）。日韓両国が協力して東南アジアを支援するという「一方的」なものなど当時の自分にはどこか絵空事のような気がしていました。

そして時は過ぎ、2011 年 3 月。皆さんの記憶にも新しい東北地方太平洋沖地震（東日本大震災）が発生しました。先進国ゆえに専ら「支援」する側と思われた我が国ですが、あの日、地震大国という脆さがかつて無いほど露呈したことで状況は一変したのです。

一時的な帰宅困難や食糧不足、ライフラインの制約という日常生活を送ることが困難な状態を余儀なくされ、「支援」されることのありがたみを肌身で実感したのは私だけでしょうか。当会のニューズレターを通じてカンボジアの方からお見舞いの言葉を頂戴したことや韓国がペラのチャリティーコンサートを開催したことも記憶に新しいです。大震災は「支援」とそこから生まれる人の「絆」の大切さを我が国の身近な問題としてクローズアップしました。

そして、今後とも皆が実感として抱き始めた「絆」の大切さを忘れずに、日韓両国がより緊密に連携を図り、東南アジアへの支援により一層尽力されることを願ってやみません。依然として大地震への恐怖と隣り合わせの日本、日韓両国間に立ちはだかる歴史の問題、地球温暖化を背景とした東南アジアの洪水や干ばつなどの異常気象など、アジア地域に山積する問題は数知れません。

「支援」とは、決して一方通行ではなく、様々な人々のそれぞれの思いが行き交う幹線道路であるということを踏まえながら当会の活動に励んでまいりたいと考えております。